

百鬼園隨筆

ヒマラヤ水系

内田百閒

一

春先になつてから、雨の降る日が多い。

今日も夜来の雨が降り續き、午息がから雪

まじりの雪みぞれにまじりまじる雨脚あしの中に白いもの

がちらちら見えてわびしい。

私の家の近所は、もと生垣の多い屋敷所

であつたが、空襲の火手で煙を拂はれた

~~丹波~~ あから、すつかり翠昔の面影を失ひ、

殺風景なビルばかりが建ち列んで、早春の雨

に濡れる風情をどと云ふものも薬にくたくも

~~無~~くまつた。に向むら

たぶ硝子戸蹴しに家の庭庭雨の深に

跡の入つてぼんやりしてゐる。遠い山に雨が

降つてゐる景色を想像する。山城、攝津あた

りから向日 ~~山~~ 御堂の備前平野の向うに

ある山の姿、更に九州に渡つても、あまり山

、